

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700989		
法人名	社会福祉法人池田光寿会		
事業所名	認知症対応型グループホーム きよみ(Ⅰ)		
所在地	〒083-0022 北海道中川郡池田町字西2条10丁目2番地20		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成24年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「当たり前の生活って何」その人らしくを基本に特別な事ではなく、自らの力でトイレへ行き自然排泄の心地よさ、最後まで保っていたい部分を支え、オムツ外しを目指しております。
 又、きよみは食に力を入れております。元気に生活する基本は食にあると考え、四季折々の食材をふんだんに取り入れた献立をたてる、日本古来の行事に合った食事を提供する、等食べて、動いて、眠る自然体で生きることにより寄り添い安心出来る場所を提供する事を入れております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JigyosyoCd=0174700989-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑溢れる長閑な光景が窓から臨まれるこの事業所では、管理職と職員が一丸となり、地域密着事業の発展に取り組んでいる。事業所を運営している法人は、地域及び自治体と共同で「夏祭り」を開催し、地域との交流の柱としている。行政主催の「在宅ケア会議」への参加や運営推進会議へ自治体の担当者に出席頂くなど、連携強化の取り組みが日常的に行われている。事業所では「おむつはずし」をはじめ、利用者の能力向上に積極的に取り組んでいる。アセスメント、介護計画策定、評価といったケアプランに関わる手順が整備され、検討結果はサービス提供の場面で活用されている。職員資質の向上に取り組み、内部研修会の実施や目的を持つために管理職と職員の面談機会を設けるなどの工夫がみられる。職員は評価につながる視点で利用者と時間を共に過ごし、利用者の立場を尊重した支援に努めている。地域からの理解も深く、ボランティア活動を通じての交流や、隣接地に所在する保育園との交流などが日常的に行われている。防災訓練についてはユニット毎で年2回それぞれ実施しており、グループホーム職員は年間4回の防災訓練への参加機会が確保されている。また事業所は池田町災害非難事業所の指定を受け、備蓄食糧を確保し、有事には事業所を開放することが約束されており、消防や各種機関とも連携を図っている。今後の課題については管理者や職員が明確に把握し、次年度以降に重点的に取り組むことが計画されており、今後の充実に期待が持てる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引き継ぎ時に事業所理念を全員で唱和し、理念の再確認を実施。	地域に密着した理念を事業所内に掲示したりパンフレットに明示して、利用者や地域の住民にもわかりやすく説明を行っている。事業所内では朝の申し送りの際に理念唱和を行い、毎日の振り返りを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時、ボランティアに依頼し催し物を開催したり、交流がある。	事業所利用者は町内会や老人クラブへは未加入であるが、町内会長を当事業所の運営推進委員に任命し地域との交流の礎としており、事業所や法人で行う催事は地域住民と共同で開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての研修や学ぶ機会に参加し、地域作りに繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合われた内容等、開覧する事は出来るが、実際にどのように活かされているかは分からない。	事業所において運営推進会議は定期的開催されているが、会議結果の事業所運営への活用や出席委員が偏るなどの課題も散見される。	運営推進委員は、家族の代表としてユニット毎に選出するなどの対応を行いながら活性化を図り、更にサービスの向上に向けた話し合いが行われることに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所、市町村の窓口で連携を図っている。	運営推進会議には自治体より担当職員が参加し、日常的にも事業所の運営状況について周知している。行政主催の「在宅ケア会議」に参加し、福祉、保健、医療の連携が図れるように検討している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の手が足りない時など危険性の高い時のみ、一時的に玄関施錠もありうるが、実際には行われていない。	身体拘束を行わないケアを実践している。定期的な内部研修を開催し身体拘束を行わない意義について確認している。また、外部研修の案内がある場合には、輪番で職員を参加させ全体会議などでフィードバックを行い、情報共有を図りながら全体のスキルアップへ繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修、会議などで機会を設け、虐待とは何かを理解し、対応について振り返る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要な事と認識し、学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回家族に手紙を出したり、アンケートを送付し意見を反映している。	事業所では、主として家族来訪時には日常生活の様子を伝え、家族からの意見も伺っている。行事への参加案内時の情報収集をはじめ、利用者、家族アンケートの実施など意見・要望が運営に反映できるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティング、月1回の職員会議にて検討。	定期的な会議において、職員から運営や入居者処遇に関する意見を聞いて反映する体制ができています。また管理者は年1～2回職員と個人面談を行い、意見が表出できるように工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の個性を大切に、業務に反映させていく。自分で考え課題をもち仕事をしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年に何回か研修に参加する機会を設け意識向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と交流、研修を行う。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族のニーズの情報も職員同士で常に共有させていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声を聞き、要望など聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活をよりよいものにするために対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自らの行動、考えを大切にしており、ケアのタイミングを計っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話、FAX、お便り等でその都度家族に相談、報告をし、一緒に考える。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	直接会うことが困難な場合も葉書や手紙、電話を活用したり、思い出の場所へドライブをしたり、家族と一緒に過ごせる時間を支援している。	入居者にとって馴染みの商店や理・美容室も少なくなってきたなかで、外出時には町内や近郊の馴染みの場所にドライブを行うなどして、地域に密着した馴染みの関係継続のための支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルになりそうな時は回避するがその他は利用者同士が関係を築いている時は見守るのみ。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を尊重し、表情や態度などからも察していく。	入居以前の生活歴や習慣などの情報を家族や本人から聞き取り、また、現状の生活に対する意向や希望を確認しており、介護計画に内容が表記されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必要に応じ、生活歴に合ったサービスの提供に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングなどでスタッフ同士で検討、確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケア会議で担当職員が提出する情報を検討。	毎月、定例でカンファレンスを開催し、介護計画の実行について評価を行っている。介護計画は定期的に見直しが行われ、適時新しい課題の検討やカンファレンスに沿った修正及び見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の疑問など、その都度スタッフ同士情報交換をしていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの形態では多機能は難しい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	全員ではなく、一部の方のみである。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各自の病状、ニーズに合った機関の利用。	事業所では町内の医療機関を中心に受診支援を行っている。医師より治療についての説明がある場合などは、家族に同席してもらい、事業所と家族が病状について情報を共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各利用者さんのかかりつけ医、病院に連絡、アドバイスを受けられるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が可能であれば退院し、ホーム内で安心して療養出来るよう情報交換の実施。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、家族と相談、対応する。	現在事業所での重度化時の対応は、事業所のできることを家族へ口頭で説明し、相談に応じている。	重度化時の対応について明文化するとともに同意書を作成することを期待する。利用者の状況に合わせ段階に応じて家族へ説明し、同意を得た上で対応することにより更なる支援の充実が期待される。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し、定期的に訓練をしている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施。町内会とも対策を確認、実施。	事業所ではユニット毎に年2回の防災訓練を消防署や町内会の協力のもとで行っている。また併設している事業所(特養)同様町より緊急避難施設に指定されており、緊急用の食糧などが常時備蓄されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	節度を持ち、丁寧な言葉、態度で接する。	管理者は職員と定期的に面談の機会を設け、接遇等人格の尊重について指導している。入居者の個人記録はイニシャル表記され、プライバシーポリシーに沿って個人情報は管理されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの選択の尊重、職員本位にならないようにする。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの沿って、生活ペースが出来ているのではないと思われる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容などのサービスを提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事の嗜好調査をし、食事提供をしている。能力に合わせた作業を依頼している。	主治医からの栄養指導や併設事業所の栄養士からの助言を受けながら、職員は入居者と献立の検討を行い、嗜好を出来る限り反映した楽しみある食事提供に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食残量チェックなどで食事、水分量を把握。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアの実施。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を実施、パットや紙パンツ外しを試みる。	事業所では開設以来、「おむつはずし」に積極的に取り組み、入居者個人の能力に応じて介護計画に沿って排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	生活スタイル、パターンを把握、チェック表を記入、起床時、朝食後など便秘防止のヤーコン茶飲用。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	定期的に入浴を促し実施、失禁時などにはその都度対応し、清潔を保つ。	事業所では保清を目的として定期的に入浴機会を確保している。月に一度併設している事業所(特養)の大浴場を利用する機会を設けており、入浴支援に工夫がみられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて入床支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用を把握、変化のある時は速やかに医療機関へ連絡する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望などを取り入れ、提供できるようにする。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出の機会を設けており、日々の生活の中で活力になるような楽しみの機会を作っている。	行事の計画を立て、定期的に外出機会が確保されるように支援を行っている。また、事業所周辺の散歩や町内の馴染みの場所へ出向く等、事業所として可能な限りの対応をとっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理できる方が少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けるときもある、届いた葉書、手紙等の返事を書く支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険、事故がないよう配置に気を配り、家庭的な雰囲気や気を大切に、プライベートも守られている。	共用空間は太陽光により明るく、開放的であり、入居者が自由にくつろぐことができる癒しの空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にも一人一人リラックス、快適に過ごせる支援の実施。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の私物を持ち込むことにより自宅にいるようなリラックスの出来る部屋作りをしている。	家族の協力のもとで、居室には自宅で使用し使い慣れた家具やテレビを持ち込み、心地よく過ごせるように配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に過ごせる環境を提供、見守りなどを強化している。		